

平成25年度 生活科教育にかかわる現状と課題

部長 小林 克之

1 生活科教育の動向

- 上越市立春日小学校と高志小学校は、11月1日に新潟県小学校教育研究会生活科指定研究中間発表会、全国小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会新潟大会のプレ発表会を行った。「活動を広げ、深めていくための教師支援や地域連携のあり方」「子ども主体の探究的な学習のあり方や伝え合いにより個の学びが深まる姿を通して、子どもと教師で創り出す生活科の魅力」等、次年度の本大会につながる素晴らしい提案であった。
- 燕市立小池小学校で12月4日、2年生の生活科「つくってあそぼう～おもちゃ大会をしよう～」という公開授業を実施した。＜作りたいうおもちゃでグループを構成し交流させることは子どもの気付きの質を高めるのに有効であったか＞＜今日してみたいことを具体的に書かせることは、自分のおもちゃのどこをどのように手直しするか見通しを持たせることに有効であったか＞という視点で検証した。
- 新潟市の生活部では、「一人一人が学びを実感する生活科授業」という研究主題を掲げ、「体験」「表現」「交流」の3つの活動を単元を通して行う継続的活動と、適宜行うイベント的活動に整理して相互の関連を明確にしていった。そして3つの活動を効果的に組み合わせるために2年生「わたしの町大好き（2）たんけん はっけん 大ぼうけんから」「おもりを使ったおもちゃ」の公開授業を行って研究を深めた。

2 生活科教育の課題

各地区において積極的な研修・実践が進められている。今後もさらに以下の視点で充実・改善に努めていきたい。

- ◆ 子どもの気持ちに寄り添うところからスタートし、「情意が動く気付きの高まり」を目指した体験活動と言語活動の充実
- ◆ 子どもの思いや願いの実現に向けた必然性のある課題を高めていく
教師支援のあり方